

山川ボランティア顕彰

善意の活動に7人が受賞

山川ボランティア顕彰は、故山川昭さんのご遺族からの寄付をもとに旧高梁市が平成12年度に基金を設置。

地域社会福祉、保健、環境衛生など厚生分野のボランティア活動を続けてこられた個人を顕彰するもの（対象は高梁地域）で、今年度は次の7人の皆さんが受賞されました。

環境美化ボランティア功労

西本 勝さん (63) 中井町西方

自立更生支援ボランティア功労

樋口 義一さん (79) 上谷町

福祉運転ボランティア功労

伊山 朝則さん (73) 津川町今津

中島 春雄さん (73) 小高下町

森下 進さん (70) 落合町近似

森脇 進さん (69) 川面町

石井 秀知さん (58) 津川町八川



原田忠文さん(68)
東町

体に障害を持ちながら、自ら障害を克服し、仕事に従事、活動されている人に贈られる厚生労働大臣表彰（自立更生者表彰）を、原田忠文さんが受賞されました。おめでとうございます。

厚生労働大臣表彰
自立更生者の原田さん

保育園児の入園申込について

次のとおり、平成19年度の保育園児の募集を行います。

◆申込受付期間…1月15日(月)～2月9日(金)

◆受付場所…各保育園、社会福祉課、各地域局住民福祉課で、申込書の配布と受付を行います。
(詳細は下表のとおり)

◆定員・受入年齢…各保育園によって異なりますので、下表でご確認ください。

■問い合わせ 社会福祉課児童福祉係 (☎0264)

保育園名(公・私)	住 所	T E L	定員	受入年齢(H19.4/1現在の年齢)						受 付 場 所
				0	1	2	3	4	5	
高 梁 保 育 園	公 向町21-2	22-2423	120人		○	○	○	○	○	・各保育園 ・社会福祉課(☎0264) ・有漢地域局住民福祉課(☎03211) ・成羽地域局住民福祉課(☎02311) ・川上地域局住民福祉課(☎02200) ・備中地域局住民福祉課(☎04512)
高梁中央保育園	私 下町16	22-4333	60人	③	○	○	○	○	○	
落 合 保 育 園	私 落合町阿部1683	22-4466	90人	③	○	○	○	○	○	
有 漢 保 育 園	公 有漢町有漢3331-1	57-2014	30人		○	○	○			
鶴 鳴 保 育 園	公 成羽町下原437-1	42-2011	90人	⑥	○	○	○	○	○	
成 美 保 育 園	公 成羽町成羽2789-2	42-2239	45人				○	○	○	
ふたば保育園	公 成羽町長地941-4	29-2532	30人				○	○	○	
吹 屋 保 育 園	公 成羽町吹屋1294-3	29-2906	30人				○	○	○	
田 原 保 育 園	公 成羽町布寄145-1	45-2630	30人				○	○	○	
川 上 保 育 園	公 川上町地頭1366	48-4322	45人	⑥	○	○	○			
平 川 保 育 園	公 備中町平川6461	45-3680	30人			○	○	○	○	
備 中 保 育 園	公 備中町布瀬182-1	45-3142	35人	⑥	○	○	○	○	○	
西 山 保 育 園	公 備中町西山2015	45-2299	20人			○	○	○	○	

(注) ③・⑥はそれぞれ生後3ヵ月・6ヵ月以上のことです。また、1歳未満児は若干名の募集となります。

シリーズ
社会福祉事業の先駆者

留岡幸助 ③

同志社から牧師へ

留岡幸助は明治18（1885）年9月、同志社英学校別科神学科邦語神学課程に入學した。彼の立場に配慮した高梁教会は月4円50銭の奨学金を送って支援した。幸助は当



幸助が学んだ同志社大学校舎

寮では上級生が下級生の面倒をよく見ている。授業は英語が主で、学生中心にお互いに磨き合った。土・日曜は自学自習、健康増進、精神修養に当てられ、周囲の山々を散策し、演説会が開かれた。開拓伝

時最低3円あれば生活できたので、1円50銭を将来の妻、夏子に送り、神戸の伝道学校で学習させている。

同志社の新島襄校長は、彼が米国の学業・生活で得た人格の尊重、自主・自立の精神を養う場として、寮を重視した。全寮制とし、

道も行われ、幸助も井原に行っている。新島は学生に「新島さん」と呼ばせ、皆同じ人間として平民主義を主張した。

当時、同志社は人への愛をもって働くこと、人への奉仕こそ神への奉仕であるといった考え方で、新島の常用語は「世の中の為に」であり、その実践を重要視した。こうした空気の中で社会福祉事業に入った先駆者として、留岡幸助の他に、石井十次や山室軍平がいる。石井は岡山に孤児院を作り、家庭的環境の中で孤児たちを育て、教育している。山室は救世軍に入隊して恵まれない人々を救い、病院や施設を建設するなどの社会福祉事業活動を展開している。留岡幸助と山室軍平は備北の出身者とともに高梁教会



幸助に影響を与えた新島襄

に縁が深い。幸助は洗礼を受け、軍平は同志社から2度伝道に訪れている。岡山県は社会福祉の先進地域といえる。かつて幸助を治療した医師のベリーはその頃新島に招かれ、病院や看護婦学校を開いていたが、日本の監獄が極端な懲罰主義であることを知り、その改良を政府に進言している。幸助がベリーからこの方面に関して多くの示唆を受けたと思われる。

また、同志社の教師ゴルドンは学生に社会事業への関心を向けさせ、監獄改良・非行少年教護といった、当時世間が無関心だった分野に光をあてる仕事を示し、後に幸助が家庭学校を創る時に資金援助している。

幸助は友人から「十二英傑伝」という洋書を借りて読み、その中に出てくる監獄改良家ジョン・ハワード伝に心を留めている。世の中の暗黒面の二つのうち一つは監獄で、それに光をあてて改善を目指す話に感動し、将来その方に進むことを考えている。

以上のように留岡幸助は同志社時代に多くの師や友人、書物から大いに学び、考え、自分の進むべき世界を模索していった。

明治21年6月、同志社を卒業後、招かれて京都・福知山の丹波第一教会に赴任した。北は福知山から南は亀岡に至る六つの講義所を一人で担当、三十余里（百キロ以上）の道を歩いて回り伝道し、多くの信者を得ている。明治22年に夏子と結婚し「妻は良き相談相手なり、助言者なり家内の主人なり」と言っている。翌年には長男も生まれ、安定した生活に入っていた。

そこに金森通倫牧師を通して北海道空知集治監（現在の刑務所）の大井上輝前・典獄（現在の刑務所長）から同志社出身の教誨師を求めてきた。同志社在学中からの念願であったので、教会員の反対を押し切って北海道行きを決定した。それを力づけたのは夏子の「あなたの使命なら私はついて行きます」の言葉であった。

（文・児玉 享さん）